清流の国ぎふ 防災･減災センター
設立 10 周年記念

防災活動大賞グランプリ

実施報告書

令和７年１月

清流の国ぎふ 防災・減災センター
設立１０周年の節目を迎えて

「清流の国ぎふ防災・減災センター」は、防災・減災に関する実践的な人材育成や普及啓発等の取組みを通じて地域の防災力強化を推進することを目的に、平成２７年４月に岐阜大学と岐阜県により共同で設置されました。

また同時に、岐阜大学においては、学内組織として「岐阜大学地域減災研究センター」を立ち上げ、自然災害の予測・防止等の技術研究や災害医療の研究等、専門部門に所属する教員が当センターの事業をサポートできる体制を整備しました。

そして、高度な研究機能を持つ岐阜大学と、実際に災害対応に当たる岐阜県が共同することにより、地域特有の自然環境や社会情勢等を踏まえた取組みや研究を行い、その成果を地域へ還元して参りました。

これまで当センターの運営にご理解とご協力を賜りました皆様に、心から感謝申し上げます。

さて、これまでの約１０年間を振り返って見ますと、私たちの生活は災害とともにあった、と言っても過言ではないと、改めて感じております。

当センター開設から間もない平成２７年９月には、関東・東北豪雨災害が発生し、開設 1 年目となる平成２８年には熊本地震が発生。３年目の平成３０年には西日本豪雨が、５年目となる令和２年には、当県でも記録的な大雨となった豪雨災害が発生したほか、令和６年１月には、記憶に新しい能登半島地震が発生し、甚大な被害をもたらしました。

これらの県内外で発生した災害から得られた教訓を踏まえつつ、当センターではこれまでの１０年間、地震や洪水等の自然災害に対する備えを強化し、災害発生時には自分の命は自分で守ることを県民一人ひとりが迅速かつ的確に実践できるよう、様々な防災啓発活動等を推進してきました。

また、県全体の防災力の底上げを図るため、防災・減災活動を担う人材を育て、その人材に活躍してもらう仕組みづくりを進め、地域の防災リーダーとして活躍できる「防災リーダー育成講座」、主体的に防災・減災に携わることができる人材を育成する「げんさい未来塾」といった人材育成事業に特に注力して参りました。現在では、このような育成人材が自治体等と協働して活躍する場面が徐々に増えてくるなど、着実に成果を積み重ねることができたものと考えております。

このほか、自治体や企業を対象とした、防災訓練や防災計画策定に際しての技術的助言、教育機関等における防災体制や防災教育の指導といった支援も数多く実施してきたことに加え、我が国において発生した様々な災害の評価検証も適宜行い、今後岐阜県

行政や県民に求められると考えられる必要な取組み等の提言を行うなど、防災政策の形成にも寄与することができたものと考えております。

令和７年は、観測史上初となる震度７を記録した阪神・淡路大震災から丁度３０年目の節目となりますが、いつ再びこのような大規模災害が発生するかの予測は困難であり、平時からの備えが極めて重要となります。

清流の国ぎふ防災・減災センターとしては、地域をはじめとする多くの方々と築いてきた信頼関係、相互理解を礎に、これからも様々な災害に対する地域の安全と安心の確保に全力で取組み、地域の防災力・減災力を向上して参ります。引き続き、皆様のご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

令和７年１月
清流の国ぎふ防災・減災センター
センター長　能島　暢呂

設立 10 周年記念「防災活動大賞グランプリ」　実施概要

【　募集期間　】

2024 年 10 月 25 日～2025 年 1 月 7 日

【　応募対象　】

令和元年度から令和５年度の防災・減災センターの「防災活動大賞」受賞者のうち、現在も活動を継続されている者（「特別賞」及び「みんなの特別賞」は除く。）

【　公開選考会　】

（１）冒頭に 120 秒ずつの自己紹介を発表者が行いました。
（２）その後、ポスターセッション方式により活動の紹介を行いました。
（３）これらを踏まえて、清流の国ぎふ防災・減災センター関係者による選考を別室で行い、「グランプリ」１点、「準グランプリ」３点選出しました。
（４）当日のタイムスケジュールは以下の通り

開催日：2025 年 1 月 13 日（月・祝）

13:30　開会挨拶
13:40　タイムスケジュールと選考ルールの説明
13:45　発表者自己紹介
14:00　ポスター発表
14:50　休憩
15:00　自由交流
15:30　表彰式(表彰：能島センター長)
　　講評（平野副ｾﾝﾀｰ長・小山副ｾﾝﾀｰ長、永井･岐阜県防災課長）
16:00　閉会

【　選考結果　】

選考の結果は以下の通りです。

≪　センター設立 10 周年記念防災活動大賞　グランプリ　≫

大八まちづくり協議会

大八防災プロジェクト special

≪　センター設立 10 周年記念防災活動大賞　準グランプリ　≫

当初計画では準グランプリは２枠でしたが、審査委員会で厳正な審査を行った結果、枠を１つ増やして以下３団体を準グランプリとしました。

（応募受付順に掲載）

垂井町東地区まちづくり協議会なまずの会

ⓝかまと　ⓜちを　ⓩっと守ろう

NPO 法人防災士なかつがわ会

「地域防災力強化」への取り組み

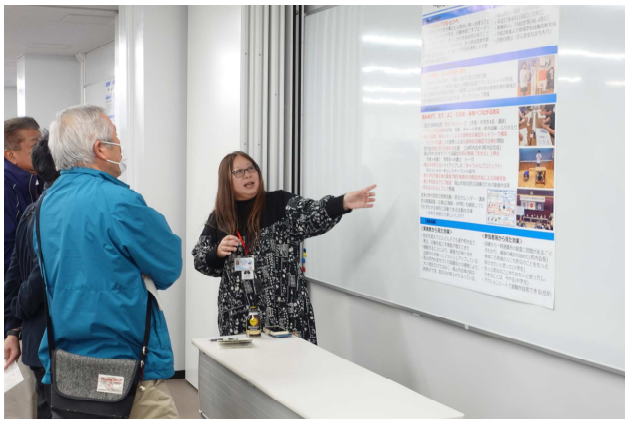
岐阜県立大垣南高等学校　チーム美女と輪中

防災×探究　～南高ふるさと教育のその先に～

なお、副賞には、今後のさらなる活動資金としてグランプリに賞金 10 万円、準グランプリに賞金 5 万円を贈呈しました。

当日の様子

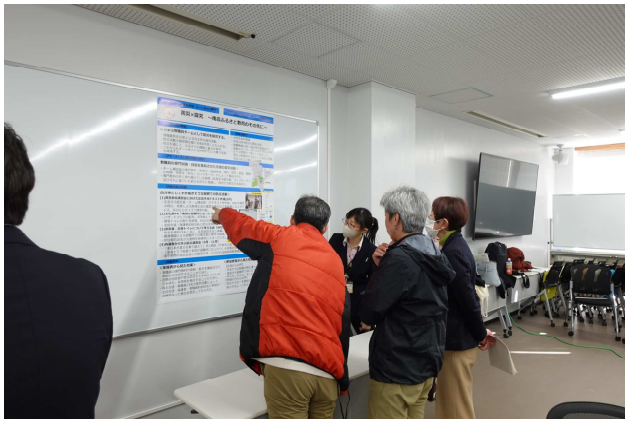
発表者・防災活動大賞審査員の方々



大八まちづくり協議会

垂井町東地区まちづくり協議会なまずの会

NPO 法人防災士なかつがわ会



岐阜県立大垣南高等学校 チーム美女と輪中

受賞団体による説明の様子

応募作品

（応募受付順に掲載）

団体	主な活動範囲	タイトル
① 垂井町東地区まちづくり協議会 なまずの会	垂井町東地区	㊀かまと　㊀ちを ㊀っと守ろう
② NPO 法人防災士なかつがわ会	中津川市内全域	「地域防災力強化」への 取り組み
③ 岐阜県立大垣南高等学校 チーム美女と輪中	大垣市浅中地域	防災×探究　～南高ふるさと教育のその先に～
④ 大八まちづくり協議会	高山市大八地区 （16 町内会）	大八防災プロジェクト special
⑤ 星和中学校避難所運営委員会	大垣市立星和中学校の近隣地域	『星和中学校に行けば 助かる』を実現するために
⑥ チーム本庄	岐阜市本荘	助けられる側から助ける側へ

全 6 品のポスターを次ページ以降に収録します。

なかまと　まちを　ずっと守ろう
（垂井町東地区なまずの会）

【活動内容の特徴】

好きな活動を土台に！

みんなが「好きなことを言い合い」ながら、活動を展開しています。有志で始めた活動が、地区全体の**19自治会すべてに波及**するように工夫を重ねています。加えて、垂井町内の他地区の防災活動との交流も始め、**町全体の防災活動の底上げ**も目指しています。

【団体の紹介】

・垂井町東地区
・2016年度～現在まで(9年が経過)
・実働人数12人／総人数15人
・「誰かに言われてやるのとちがう」
　昨年度、**防災活動大賞**をいただき、さらに元気を増して活動しています！。

【アピールしたい防災活動の成果】

楽しく、ボトムアップ型で

メンバー一人一人の主体性を大切にしながら、**楽しく**、自由に、それでいて常に先を見据えて活動を継続しています。行政、社協、小中学校、NPOなどとも協働しながら、自治会単位の自主防災組織の活動を下支えする**ボトムアップ型の活動**を展開しています。

【活動内容の詳細】

住民主役の活動を続けてきました

★第一期（2016年度～2018年度）
「多様な住民参画による住民主体の災害時対応計画策定」
・先進地見学、防災マップづくり、小学校での啓発事業など

★第二期（2019年度～2021年度）
「住民主体で地域の防災力パワーアップ」
・先進地見学、避難所運営体験、オンライン講演、通信発行など

★第三期（2022年度～2024年度・現在）
「自治会単位の自主防災組織の活動活性化」
・先進地見学、避難所運営体験、自治会単位の**自主防災組織の下支え**（講師派遣、災害対応準備支援など）、防災啓発ソング、垂井町内他地区との交流会、通信発行など

★第四期（2025年度～2027年度・予定）
・先進地見学、避難所運営体験を活用した**コミュニティ強化**、自主防災組織下支えの拡大、他地区との交流、通信発行など

【活動成果】

＜実施者から見た効果＞

コツコツと、誰もができる防災活動を積み重ねてきたことが、ようやく自治会単位の自主防災組織とも重なり合い、**地区全体に浸透**を始めています。昨年度、**防災活動大賞**をいただいたことが励みになり、新しいメンバーも加わり、垂井町全体への波及も見据えた**次の3年間の計画**も立て始めています。

＜参加者等から見た効果＞

はじめは受動的だった自主防災組織の皆さまが、次第に**能動的**に動き出されるようになってきました。なまずの会に対して、自治会単位の防災講習への講師派遣や、自宅での家具固定などへのアドバイス依頼などが始まり、**より住民一人一人が主体となった活動**へとの展開が見られるようになってきています。

「地域防災力強化」への取り組み

【活動内容の特徴】

4回の防災大賞と特別賞をいただきました。
その後の活動状況を報告いたします。

地域防災力の強化

「地域防災力の強化」の必要性を誰もが言いながらその具体策が示されない中、自主防災会や地区役員経験を持つ会員のノウハウを結集し、様々な啓発事業により地域は勿論、児童から高齢者まで巻き込み総合的に実施している。

【団体の紹介】

主な活動地区：中津川市内全域
取り組み期間：平成23年～現在の14年間
現在の会員数：実働110人／総人数120人
アピールポイント：一過性の活動ではなく、将来を見据えた継続できる組織体制を整備し、多くの講師陣により幅広い啓発活動や具体的な減災対策を実施中。

【アピールしたい防災活動の成果】

◆防災・減災に限定せず多くの組織や団体と連携し「先ずは集まる。」「住民主導の安全安心な講座」のコンセプトから受講者が行政に頼るのではなく「自分の命は自分で守る。」という意識に変わってきている。

◆大賞受賞後は市民の関心も高まり多くの組織や学校からの活動要請が跳躍的に増加した。

社会福祉大会で優良賞受賞

【活動内容の詳細】

◆「ジュニア防災教室」として地区役員や学校を巻き込み幼・保・小・中を通した一貫した防災教育を継続中。大賞受賞後は高校や大学での講義を実施するまでに至った。

◆市内の全教育施設の家具、備品転倒防止対策工事および刺股設置工事を実施（保幼稚園21・小学校18・中学校12・学童保育所/児童館等26）
継続して取り付け後のレイアウト変更などの事後対応も実施中。

◆自主防災会として最も大切なことは「安否確認」と訴え続けてきた。個人情報問題を乗り越え、レベル差はあるものの着実に広まってきている。

◆広範囲で継続して啓発活動を実施するための講師を養成するために市民を巻き込んだ公民館講座「減災講座」を実施中。講師は会員に限定せず警察署、消防署、国交省、自衛隊、行政、社協、各種ボランティア団体などに依頼し相互に学び合っている。

◆資格だけ取って活動していない防災士を活用するため各地区に防災士会設立の提案や支援を実施中。

避難所設営の一幕

学校での備品転倒防止工事

安全安心紙芝居の表紙

手話Ｇと災害時の対策を勉強

【活動成果】

＜実施者から見た効果＞

◆継続して啓発活動を実施する体制が出来た。
・ＮＰＯ法人化
・多数の講師陣

◆他団体との協働や連携が図れた。

◆これからを担う子供の居場所の安全が確保された。

◆防災士の取組みが各地域で広がってきた。

＜参加者等から見た効果＞

◆防災・減災に対する考え方の変化。
・行政の為ではなく、自分の為。
・子供から家庭への浸透が広がってきた。
・本音で考えた自主防災組織が増加した。

◆市が進めてきた「災害に強いまちづくり市民会議」の基本的な考え方が自助・共助へと変わってきた。

防災×探究　～南高ふるさと教育のその先に～

【活動内容の特徴】

自ら学ぶ教職員チームとして防災を探究する。

・教職員有志10名による自主的な探究活動。
・防災活動大賞受賞を機に令和6年度に立ち上がる。
・防災を通じて、ふるさとの課題と魅力を発見。
・これからもずっと地元に住み続けたいと願う生徒を育成する。

【団体の紹介】

・大垣市浅中地域
・平成31年4月から現在(6年)
・実働教員10名／過去参加教員延8名
・実働生徒13名／過去参加生徒延208名
・元々は授業の一環として始まった。
現在は教職員を主体とした有志で活動。
南高の防災の要となる組織。

【アピールしたい防災活動の成果】

教職員の専門知識・技能を集結させた究極の探究活動！

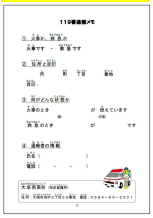
・チーム構成員の専門教科（家庭科、保健体育、理科、数学、国語、情報）の知識・技能を「防災」というキーワードによって集結させた。
・専門教科の外に持ち備えている資格（応急手当普及員、ライフセーバー）及びそれに基づいた能力を存分に発揮し、校内での防災力を高めた。

【活動内容の詳細】

自分事として手が届きそうな範囲での防災活動！

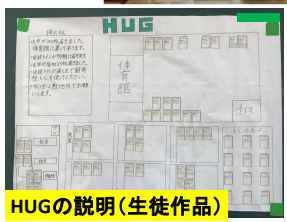
(1)救急救命講習会に向けた応急手当テキスト作成(6月)
・応急手当普及員（チーム構成員）がテキストを作成。AEDの場所の明示、校歌による胸骨圧迫の速度の提示など本校用にカスタマイズ。手のひらサイズで携帯可能。

救急救命講習会

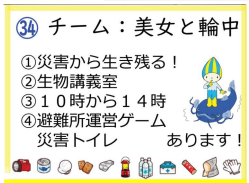

119番通報メモ

(2)文化祭PR「南高が避難所になったら」(9月)
・ハザードマップの配布。非常食レシピの提案。
・簡易トイレの耐久性調査。HUGの演示。
・全校生徒・保護者約800名に防災をPR。

耐久性調査



HUGの説明（生徒作品）



文化祭PRパンフレット

(3)非常食・災害トイレについて考える会（9月）
・有志生徒約15名と共に、非常食炊き出し体験。
・養護教諭による避難所での衛生面に関する指導。
・参加者約20名が災害時を具体的にイメージした。

衛生面に関する指導

地図を用いた被害想定

(4)有識者から学ぶ防災講習会（9月・11月）
・「東日本大震災を乗り越えて」井上剛氏（やまもと語りべの会）
・「南海トラフ地震で本校が避難所になったら」小村隆史氏（常葉大学）
・浅中南地区自治会長との意見交流。※(3)(4)は岐阜県教育委員会の事業の一環。

【活動成果】

＜実施者から見た効果＞

・教職員の専門教科や資格・能力を集結させて南高防災を探究することができた。
・近隣自治会長や地元防災士と平時からつながりを持ち、非常時を検討することができた。
・有志生徒・教職員23名の探究活動によって全校生徒・保護者・教職員約800名に南高が避難所なった場合を想定してもらえた。

＜参加者等から見た効果＞

【生徒からの声】
・先生たちの授業の時と違った姿が魅力的だ。
・高校生も避難所で役に立てることがあった。
・みんなで炊き出しをしたご飯はおいしい。
【地域の方からの声】
・先生たちが一生懸命だから、我々自治会も協力するよ！これからもがんばってね！

高山市　大八まちづくり協議会

清流の国ぎふ 防災・減災センター設立10周年記念
防災活動大賞グランプリ

応募作品〔4〕

大八防災プロジェクトspecial
～みんなが主体的に防災について動き始める～

【活動内容の特徴】

イメージからアクションへ

ひとりひとりが自分事として防災に関心を持つフェーズから、それぞれが考え、行動を起こすフェーズへ移行。主体的に考え、動くしかけを継続的に行うことで、小中学生や町内会の皆さんが、自ら防災啓発や訓練に取り組み始めた。ICT導入や他団体連携による要支援者対策の検討開始。

【団体の紹介】

・高山市大八地区（16町内会）
・平成27年4月1日設立(10年目)
・実働86人、1580世帯(R6.4現在)
・令和2年度より地域学校協働活動実施
・活動目標は「安心安全なまち大八」

【アピールしたい防災活動の成果】

わたしが動く　みんなで動く防災

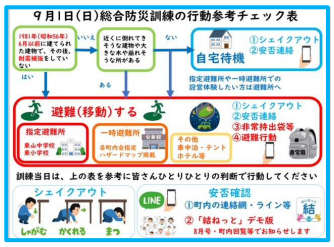
◎子どもたちが自ら考え、行動し始めた防災啓発活動
◎リアルな訓練による課題の抽出と避難所設営アクションシートの作成
◎電子回覧板や医療福祉機関との連携による災害時要支援者支援対策検討
◎町内単位の地区防災計画の作成・ワークショップ開催

【活動内容の詳細】

積みあげて　たて・よこ・ななめ・未来へつながる防災

・設立10周年記念　防災パネルトーク　(市長・中学生4名・講師)
・リアルな防災訓練の計画・実施　チャート作成・町内訓練・ふりかえり
・電子回覧板「結ネット」による災害時安否確認ネットワーク構築
・「大八ケア会議」との連携による災害時安否確認方法検討開始
・町内会の地区防災計画作成支援　(16町内会中3町内会完成)
・高山市4つのまちづくり協議会合同の映画「生きる」上映会
　市長×弁護士　教育長×弁護士　トーク
・東山中学校生徒とタイアップした「キャラメルプロジェクト」
　防災はじめの一歩としてキャラメル配布
・東小学校児童主体の震度7発生被害状況模型作成による訓練実施
・東小学校防災クラブ結成　高山市総合防災訓練のための動画作成等
・防災＆ＳＤＧｓフェア開催

従来の世代別防災啓発活動・防災カレンダー・講演
防災意識調査・広報(広報紙・HP等) も継続しつつ
それぞれが主体的に活動できる活動を支援
　＋未来を見据えた新しいしかけ



【活動成果】

＜実施者から見た効果＞

・想定を超えてどんどん子ども達や町内会で考え、行動を起こす場面が増えてきた
・継続することにより、基礎力が身に付き自助から共助へとブラッシュアップしている
・高山市内のまちづくり協議会との連携により、大八地区だけではなく、高山市全体の防災啓発ができ、防災力の底上げになっている。

＜参加者等から見た効果＞

・訓練から一時避難所の耐震に問題があることがわかり、補強の検討を始めた(町内会長)
・家族にも地域の人にも防災のことをもっと知らせたいと思った(小学生)
・もっと防災のことを広めたいと思ったし、できることは、今やる(中学生)
・アクションシートで避難所設営できる(住民)

『星和中学校に行けば助かる』を実現するために

【活動内容の特徴】

近隣５自治会共助の防災活動

星和中学校を指定避難所とする近隣の自治会が、連携して避難所運営委員会を立ち上げ、コロナ禍も絶え間なく、地域住民の防災意識向上と避難所運営スタッフの育成を推進してきた。

【団体の紹介】

- 大垣市立星和中学校の近隣地域
- 2017年4月～現在(8年目)
- 委員会実働40名／委員97名
- 地域の垣根を越え、知恵を出し合い、助け合って「避難所運営」をはじめとする防災活動に取り組んでいる。

【アピールしたい防災活動の成果】

地域住民による迅速な避難所立ち上げの目処が立った

毎年11月上旬を総合防災訓練の日として、昨年の振り返りから今年の訓練内容を相談企画する。各自治会から選任された避難所運営スタッフに事前研修を行い、地域住民の避難開始と並行して避難所を立ち上げる実践的な初動対応訓練を継続している。

2024年11月3日　避難所生活体験

【活動内容の詳細】

自治会の防災担当は半数以上が毎年入れ替わるが、活動継続によって、より多くの方が避難所の立ち上げと避難所生活を実地体験する機会となっている

- 2017～2021年
  準備期間を経て**星和中学校避難所運営委員会発足**
  3自治会が星和中学校における合同防災訓練開始
  コロナ禍でもWeb会議と在宅型の防災訓練を継続
- 2022年　《5自治会114名参加》
  感染症予防と要配慮者支援
  感染症予防に留意して参加人数を制限
- 2023年　《6自治会284名参加》
  子育て世代にちょうどいい防災
  環境を整備し新たに59名の親子が参加
- 2024年　《5自治会198名参加》
  避難所生活体験と車中泊避難
- 次年度以降
  命を守る訓練の本質を堅持し、参加に対する負担感低減にも配慮

星和中学校近隣防災訓練（2024.11.03）プログラム

☆ 各自治会50名 合計250名程度を想定して計画する ☆

時間	項 目	責任者	担当
	事前準備	本部	各班
		各班長	各班
		物資班長	各班合同
	前日 16:00～17:00	各班長	各班合同
	当日 07:00～07:30	各班長	各班
		本部	各班長
07:30	発災	各自治会	
	避難所開設訓練	本部	各班合同
		各班5名以上	
		施設班長	施設班
08:00	避難所開設・受付開始 南門から入場 受付は生徒昇降口前	本部	各班合同
	感染症予防	救護班長	救護班
	避難者の収容	施設班長	施設班
	参加人数の把握	総務班長	各自治会長 総務班
	開会	本部	委員長
08:30	研修開始	本部	各班長
	グループ：一般1／一般2／※ その他		
	車中泊避難 講演 30分		
	移動 10分		
	避難所生活 30分 → 移動 10分 → 車中泊避難 30分	福祉避難所 子ども広場	車中泊避難 30分 → 移動 10分 → 避難所生活 30分	各研修に自由参加
	体育館に戻る 10分		
	※ その他：運営側のメンバーや途中参加の子育て家族など		
11:00	訓練終了	本部	ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ 副委員長 各班合同
11:30	星和中ボランティア	本部	有志
12:00	退出完了	本部	各班合同

2024年11月3日　子ども防災クイズ

2024年11月3日　福祉的避難所待機室体験

2024年11月3日　車中泊避難実車展示

【活動成果】

＜実施者から見た効果＞

- 共に活動することで、地域の多様な人材や組織と繋がりができ、それぞれの持ち味を生かして組織力を発揮できるようになった。
- 役員が不在でも、**避難してきたメンバーで速やかに避難所を開設**できる地域の防災力実現に邁進している。

＜参加者等から見た効果＞

アンケートの回答より

- 訓練により有事のシミュレーションができて防災意識が高まった。
- 「体感できたこと」がよかった。必要なものがわかれば、自分の備えが想像できる。
- 避難所生活での知見をもっと学びたい。

助けられる側から助ける側へ

【活動内容の特徴】

【即戦力の育成】

・能登半島地震支援に派遣された方々から、今備えるべき地域力の必要性（受援対応力等）を学び、出来ないことを出来るに変えるチームに育てる。

【団体の紹介】

・岐阜市本荘地域
・令和2年～（中学2年生と取り組む）
・現在の会員人数(実働人数15人／総人数50人)
・やるべき事に気づき⇒考え⇒行動する指示待ちをしないチームです。

【アピールしたい防災活動の成果】

【現状を知る】

・災害弱者の避難誘導方法の模索
（避難者への現状報告+避難経路の情報共有）
・被災場所をタブレットで撮影し対策本部へ送る⇒地図に書き込む
・中学生だからこそ学校周辺（通学路）の地理を把握している。

【活動内容の詳細】

【ぬくもりと優しさの避難所】

①本部に届いた情報を救助者へ伝え（タブレット）臨機応変に避難経路を選び出す。
②避難所で靴が脱げない方、足が冷える方等へのシューズカバー。staff介助を辞退し、室内に入れない方のために自動シューズカバー機を準備。但し、安全のため福祉用具の手すりを設置。
③「新聞紙でご飯が炊ける？」災害時にあったかいご飯が少人数でも準備できる【魔法のかまどごはん】お湯が沸けばレトルト食品も活用できる。
④突然の災害で避難所生活が始まると、心が不安定になる方がいる。一息つけば落ち着けるのではと個室の準備。能登半島地震時に倒壊の危険がある自宅に帰る方が見えたとか（DMAT報告）。高齢者でも出来る組み立て用ビスや未就学児のお絵かきボードにもなる段ボール個室は有効
◎平常時に気づくことが優しさに。

【活動成果】

＜実施者から見た効果＞

・「○○さんがいないとわからない」「前例がない」は、禁句だと思う。地域の素人専門家が連携協力できれば、大きな力を発揮するのではないでしょうか。
・防災研修の中身は時代に沿った内容とし、スキルup（必要とされる実践力）を行うことが必要と思う。

＜参加者等から見た効果＞

・中学生の真摯な取り組みに感心しました。
・弱者に寄り添う安心感うれしかったです。
・被災道路の状況を瞬時に地図に落とし込む姿にたくましさを感じました。
・チーム内での動きは、大人が学びました。
・被災時のあったかい食事は人が優しくなりますね。

講評

＜清流の国ぎふ 防災･減災センター　センター長　能島　暢呂＞

受賞された皆様おめでとうございます。非常に高レベルな方々ばかりで票が分かれましたが、このように賞を決めさせていただきました。

それぞれの地域に成果を持ち帰っていただき、これからの活動をさらに頑張っていただきたいと思います。

また、参加された皆様が受賞団体の活動を参考にして、体制をさらに強化していだくことを祈念いたします。

本日はありがとうございました。

＜平野副センター長（代理：海蔵･岐阜県危機管理次長）＞

今回エントリーいただいた団体の皆様の取組みはどれも素晴らしく、甲乙つけがたいものでした。

また、石川県能登半島地震で課題となった避難所の運営やトイレ設営等の取組みも行っていただいており、大変心強く感じたところでもあります。

皆様に取り組んでいただいている活動が県内に広がることで、万が一災害が起こった場合でも安心して暮らせる地域が構築されると考えています。

このため、皆様には、今取り組まれている活動を続けていただくとともに、県内全体にその取組みを広げていただくことを期待しております。

＜小山副センター長＞

さすがグランプリというだけあって、レベルの高い内容ばかりでした。

地域の防災活動では持続性や関係する人や団体と連携がとれないことが課題なのですが、今回お集まりいただいた皆さんは、色々なところと連携しており、全国的に見ても先進的な取組みをされていると感じました。

今回の選考基準においては、活動の完成度だけでなく、防災活動大賞受賞後の活動の広がりや、取組みの波及性を評価させていただきました。今後も引き続き活動を続けていただきたいと思います。

＜永井･岐阜県防災課長＞

受賞された皆様おめでとうございます。

また、日頃から防災活動に取り組んでいただきありがとうございます。

能登半島地震では、避難所の自主運営化が課題となりましたが、地域で防災活動に

取り組んでいただくことが、この課題を解決するために一番効果的な方法だと考えています。

　このため、皆様には、今取り組まれている活動を県内に広く普及していただきますようお願いいたします。

センターの足跡

当センター設置後の２年間は、県民の皆さんの防災・減災意識の醸成や地域における防災人材づくり、防災人材同士の交流の場の創出に取り組む等、地域の防災力向上に向けた基礎づくりを行ってきました。そして、概ね３年目からは、３年間を１タームとし、以下に紹介するような取組みテーマを設定して活動してきました。

【第Ⅰ期：平成 29 年度～31 年度】　『防災人材育成強化期間』
● 平成 28 年熊本地震のような大規模災害時には、自治体の対応に限界があることから、地域の防災リーダーが中心となって日頃から備える「自助」と、地域が協力して助け合う「共助」の強化に取組みました。

【第Ⅱ期：令和元年度～３年度】　『住民行動力・避難力強化期間』
● 平成３０年７月豪雨の教訓を踏まえ、人づくり、防災意識の向上に加え、住民一人ひとりが「命を守る行動」を実行できる行動力・避難力の浸透に努めました。

【第Ⅲ期：令和４年度～６年度】 『育成人材の活躍とネットワーク化強化期間』
● 逃げ遅れによる死者・行方不明者ゼロの実現に不可欠な早期の避難行動の浸透に向け、地域の防災リーダーを核として、住民や地域の防災意識を向上すべく、育成した防災人材の活躍の場づくり・ネットワークづくりを推し進めました。

また、当センターでは「防災力の裾野を広げる」ため、『げんさい楽座』や各種防災研修講座等を開催したほか、「防災力の専門性を高める」ため、『防災リーダー育成講座』や『災害・避難カード指導者養成講座』等を実施してきました。さらに、「地域防災力のつながりを強化する」ため、『げんさい未来塾』等の取組みを推進してきました。

【げんさい楽座】

- 大学教員等による講話や、参加者間での意見交換・顔の見える情報交流を深めること等を目的に開催しています。
- 対面だけでなくオンラインも併用して開催しており、平成２７年度の第１回目からこれまでに、１１０回、延べ５，８００人の方に参加いただきました。
- 当センターでは、これからも、げんさい楽座の開催を通じて、各圏域で活動される様々な防災人材のネットワークづくりを支援していきます。

【防災リーダー育成講座】

- 防災・減災に関する専門的な知識を身に付け、地域の防災リーダーとして活躍することができる人材を育成する専用講座です。(毎年夏と秋に開催)
- 講座修了者を「清流の国ぎふ 防災リーダー」として認定しているほか、講座修了者のうち希望者は、NPO 法人日本防災士機構が実施する防災士試験の受験資格を得ることができます。
- 平成２７年度からこれまでの間、１，６００人の方が講座を受講され、１，３５０人を超える防災士が誕生しました。

【災害・避難カード指導者養成講座】

- 平成３０年７月豪雨において、災害が発生する前に避難行動を実行することの重要性が改めて確認されました。
- そこで、市町村職員のほか、地域の防災士や自治会役員、消防団員等を対象に、災害・避難カードの重要性や作成方法等を啓発する指導者を養成する講座を開催しています。(災害・避難カードは、災害発生時に、自分の命を守るための手順を一目でわかるように整理したカードです。)
- 令和元年度から開始し、これまでに５０回、４５０人を超える指導者を育成しました。

【げんさい未来塾】
● 主体的に防災・減災に携わることができる人材を育成するため、大学教員や当センターのコーディネーター等が個別指導を行う特別講座です。 ● 誰でも受講できる一般コースのほか、令和４年度からは県内で防災実務にあたる公務員を対象としたコースも用意。平成２８年度から現在までの間、５６人の塾生が卒塾しました。 ● 卒塾生は様々な場面で活躍しており、岐阜県や市町村の防災啓発講座の講師や研修会のコーディネート等を担い、年々その幅を広げています。